

ViVid You & I

2005年3月
Vol.16

「Vivid」はあざやかな、生き生きとした、活発な、はつらつとしたという意味の英語です。「You & I」は本市の女性行動計画にも用いたとおり、女性と男性のパートナーシップを意味する言葉

です。「女性も男性もいきいきと生きることができる」という、男女共同参画社会の理念を明確に表わす言葉として、愛称に決めました。



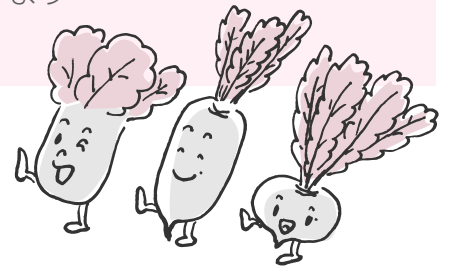
主な内容

- ★ 夢を追いかけて..... 2~5
- ★ 「日本女性会議2004まつやま」派遣レポート..... 6~7
- ★ 生駒市女性センターからのインフォメーション..... 8

夢を追いかけて

夢という言葉はいろいろな意味をもっています。睡眠中に見る夢。空想的な願望や、心の迷い。将来実現したい願い、理想など。これらの意味に、もう一つ付け加えたいことは「実現したい願い」には変わりがないのですが、それは多くの時間や労力を要する壮大な夢ではなくて、個人のちょっとした工夫で実現できる日常生活レベルでの「夢」なのです。言い換えれば、現実生活のひとこまひとこまで「こうしたい」「ああしたい」と願う気持ちです。

小さくてもいい、そういう夢を常に持っていることが、まさに「夢を追いかけて」という状態なのではないでしょうか。迷い多き人生のスパイスとしての夢の役割を、一緒に考えたいと思います。今回紹介する4組は、日常生活レベルより少し勇気をもって取り組まれた人たちです。この人たちの生き方を通じて、多くの方が「自分の夢」に思いを巡らせてくださることを願っています。無理だとあきらめていた夢を、もう一度復活させてみませんか？そして、よりたくさんの夢が少しずつ膨らみ育まれることを願います。



<家庭料理店「古麦わら」(塩崎 ^{こもぎ} 延宏さん、^{しおざき} 文子さん ^{のぶひろ} ご夫婦) ^{ふみこ}を訪ねて>

生駒駅南に夫婦二人で家庭料理の店を営んで3年という「古麦わら」さんを訪問しました。屋号の由来は築170年の家の萱葺き屋根から出たという一束のわらを購入したことからとか。「古麦わら」という呼び名の、響きの良さに魅せられたそうです。玄関に飾られている黒光りしている古い藁はお店のインテリアにもなっています。こだわりの食器は主に文子さんの手作りだそうです。大きな器は延宏さんも焼かれるとか。ご夫婦の仲の良さがお店の雰囲気に出ており、家庭的な味を醸し出しています。脱サラで始めたという域を超え、料理は本格派で見た目も客を満足させてくれる品々でした。



(延宏さんの転職のいきさつは?)

28年勤めた医薬品会社を辞めた最大の理由は精神的な疲れですね。若いときから食べることや料理に興味があって小さな店をやりたいと思っていました。退職後半年で店の物件が見つかり、背中を押された気がして始めました。

(不安はありましたか?)

資金繰りと計画性のないまま始めたので、初めは苦労しました。3年目に入った頃から続けていけるという明るい気持ちになれました。そして目標としてきた「家でくつろいでいる気分になれる店」に近づいたと思います。

(今後の夢は?)

毎日多くのお客様に来てもらえたらいいですね。従業員を雇うほど忙しくなるのではなく、あくまで夫婦二人で末永くやっていけるような店であれどと思っています。



＜テラスカフェ「峠」^{とうげ}（浦中^{うらなか} 禎夫^{さだお}さん、禎子^{さだこ}さんご夫婦）を訪ねて＞

生駒市西畑町の「峠」という喫茶店を私たちが訪れたのは、12月半ばの昨年最後の営業日でした。この後三ヶ月ほどは冬期休業。お客さんもしばしの別れを惜しんでか、こじんまりとした店内は賑わっていました。店のすぐ先はもう東大阪市。名前は「暗がり峠」からつけられました。まさに知る人ぞ知るところですが、昨年秋に俳優の緒方拳さんが仕事で来られた時、一緒に撮られた写真が店内に飾られていました。オーナー手作りのケーキセットと、のどかな景色に安らぎを覚えた半日でした。



（お店を開かれた動機は？）

夫の定年後、年金暮らしの中で生きるむなしさを強く感じ、60歳を機に生活を変えたいと思いました。「今すぐ私にできることは・・・？ 客人のためにおいしいコーヒーを入れること。訪ねてくれた親しい友をもてなすように。“一期一会”の思いを大切に。」こんな考えが生駒に所有している空家と結びついて「峠」の誕生となりました。

（ご家族の協力は？）

手先仕事が好きで夫はよくサポートしてくれています。つるで籠を編み、2階で販売もしています。畑で作る野菜をお客さんに配ったりすることも楽しみのひとつのようです。

（お店をやっていてうれしいことは？）

お客様との会話が楽しく、特に「また来たよ！」と声をかけられることがなによりもうれしいです。私の宝物ですね。

（今後の夢は？）

趣味で登山もしていますので、スイスのアルプスにも登ってみたいですね。



＜人形作家^{あけぼし} 明星いっぺいさんを訪ねて＞

生駒市鹿ノ台にあるご自宅の2階のアトリエで、掛け軸に描かれたふくよかな仏様や「まあい粘土の動物たち」が私たちを出迎えてくれました。作品は丸いフクロウが主で、その風貌はまるで先生を思わせると言えばちょっと叱られるかも知れませんが。温かな話しぶりにすっかり魅了されたひとときでした。グラフィックデザイナーとして25年勤務した広告制作会社を辞められ、現在の人形作家になるまでのご苦労を伺ってきました。



（当座のご苦労は？）

自分の作品を紹介するためにいろいろな所を訪れ、まるで行商人になった気分でした。サラリーマン時代のシビアな精神的ストレスを帳消しにして、さらに得るものが多くありました。

（作品について）

丸い形が好きで、丸から動物へと発展させることを考えました。今でも作品の大半であるフクロウが人気があり、テーマは一貫して縁起物です。

（現在の活動は？）

月1回くらいの割合で個展を開いています。その時壁を飾るものとして絵を始め、お地藏様に興味を持ち、仏画も描いています。月に8回位、自宅のアトリエで粘土教室を開き、平群のパナクティー

（今後の夢は？）

いつかニューヨークで個展を開くのが夢です。



＜マーケティングプランナー・キャリアコンサルタント 佐野 智世^{さのちよ}さんを訪ねて＞

「家庭、育児、仕事の優先順位に悩まされながら」とおっしゃりつつご活躍の佐野さんに、仕事への関わり方をお聞きしました。

（転職への動機は？）

短大卒業後に入社した会社での仕事は私にとって物足りなく、TSUKUBA EXPO'85に志願して協会リーダーコンパニオンとして働きました。その時に接した人たちから大きな影響を受けました。万博終了後に就職した会社では宅地建物取引主任とインテリアコーディネーターの資格を取得し、転職した会社では企画・広報関係で大きなプロジェクトにも参加して猛烈に働きました。仕事の仕方を変えようと考えたのは、育児休業中です。幼いうちは子どもと十分関わりたいと考え、独立の道を模索しました。講師活動を開始し、起業を決意。向こう3年間の仕事を決めてから退職して、戦略マーケティング研究所 ケイ・ファクトリーを設立しました。産業カウンセラー、キャリアコンサルタントの資格も取得し、現在は、博物館等施設運営計画に携わる一方、運営スタッフのマニュアル作成、人材採用・育成、高校生・大学生の職業意識啓発や就職支援、社会人の転職、主婦の再就職などをテーマとした講演活動を中心に事業を展開しています。



（今後の夢は？）

60歳までは今のペースで働き、その後は特に仕事を選びたいです。その一つは小、中、高校生のキャリア教育です。様々な職業の紹介、職業観の醸成、コミュニケーション能力の向上について年齢に応じた支援をしたい。子どもの生活にどれだけのお金が必要か、社会で生活するとはどういうことのかなどを、子どもの時から少しずつ実感して欲しい。そうすれば当然将来の仕事に思いを馳せるようになります。今は高校生にキャリア教育をすることが多いのですが、小学生から始めたいですね。

＜取材を通してわたしの夢 その1＞

書くことが好き、という理由で、女性センターの「情報発信講座」を受け、その後この「Vivid You&I」の編集に関わるようになりました。今回のテーマは夢。取材させて頂いた方の言葉から、「今の生活を変えるんだ」という、突き動かすような、強い思いが伝わってきました。受け取った感動が「Vivid You&I」を通じて、より大きな輪になって広がって欲しいと思います。

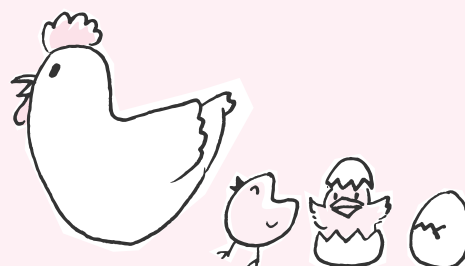
書くことによって感動の橋渡しができる。私たちの人生探しのヒントを提供できる。そんな自負が持てそうです。まだまだ実現途上の夢だけれど。

＜取材を通してわたしの夢 その2＞

「夢」をテーマに4組の取材をして、意外と軽い決意でそれに向かわれたのだと感じました。「先ずはやってみよう」という気持ちが大切なのだと感じています。自分自身の夢は過去にいくつかありましたが、それを実行に移せず現在に至っています。現状に満足する性格も災いしているのかも知れませんが、でも老後は夫婦で海外で暮らしたい。その夢を実現させるためには先ず夫の説得が必要なのですが、この難関突破に取り組んでみようと思っています。

＜取材を通してわたしの夢 その3＞

人それぞれの自分の夢への気付き方、叶え方があるのだからあとあらためて思いました。今まで出会った人、物、事柄が“点”というかたちで存在し、その点が、あちらこちらで繋がって線になる。次に線と線が繋がって1つの円になることを夢見て歩いていこうと思っています。



女性のチャレンジ支援策

あなたのチャレンジを応援します。

日本の女性は人口の半分を占め、世界最長寿の健康にめぐまれ、世界有数の高い教育を受けています。しかし、女性の能力は、今、社会で十分に活かされているとは言えません。

21世紀の日本は、あらゆる分野で新しい夢と希望を、新しいアイデアを、新しいエネルギーを必要としています。

女性のチャレンジは社会に活気を与え、ひいては男性も元気にします。

そのために、3つのチャレンジを支援します。

◇政策方針決定過程に参画して活躍する「上」へのチャレンジ

◇企業家、研究者など女性が少ない分野に新たな活動の場を広げる「横」へのチャレンジ

◇子育てや介護などによりいったん仕事を中断した女性の「再」チャレンジ

(内閣府男女共同参画局、県女性センターのパンフレット等より)

講座、情報提供、交流、相談…。いろいろな面からあなたを応援します。

■生駒市女性センター

〒630-0257 生駒市元町1丁目6番12号 生駒セイセイビル3階

☎0743-73-0556 Fax 0743-73-0556

*平成17年1月には「女性のためのパソコン教室」を開催しました。80人の定員を大きく上回る応募があり、チャレンジ意欲満々の講座でした。



■奈良県女性センター

〒630-8216 奈良市東向南町6番地 ☎0742-27-2300 fax0742-22-6729

<http://www.pref.nara.jp/jyoseic/top.htm/>

■大阪府立女性総合センター（ドーンセンター）

〒540-0008 大阪府中央区大手前1丁目3番49号 ☎06-6910-8500 <http://www.dawncenter.or.jp/>

■内閣府男女共同参画局

<http://www.gender.go.jp/e-challenge/> 「チャレンジ・サイト」には情報がいっぱい。

■(財)21世紀職業財団 奈良事務所

〒630-8115 奈良市大宮町6-9-1 新大宮第1ビル5F ☎0742-36-6777 fax 0742-36-6778

フレイフレイテレフォン ☎0742-64-2020 <http://www.jiwe.or.jp/>

本

『わたし主義でいく！ 女40歳からの脱専業主婦の生き方』

トコ/著 講談社

『パッチ・アダムスと夢の病院』

パッチ・アダムス/著 主婦の友社

『お母さんの再出発・自分探し応援BOOK』

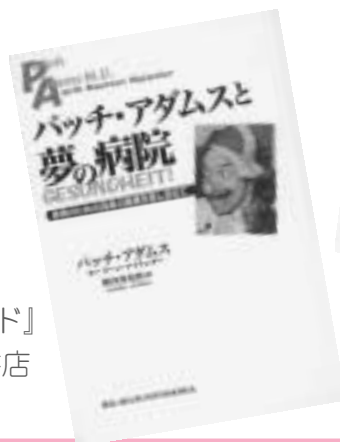
藤本 裕子/著 企画室

『きっとあなたにできること』

唯川 恵/著 PHP研究所（PHP文庫）

『2006年版 女性のための仕事・資格ベストガイド』

レディース ワーク フォーラム/編 池田書店



「日本女性会議2004まつやま」派遣レポート

生駒市では、女性問題の解決と男女共同参画社会の実現をめざして、生駒市女性行動計画「女と男 Y O U & I プラン」に基づく事業を展開しています。その一環として、リーダーづくりのため国内研修に参加する市民を公募し、6名の方々を「日本女性会議2004まつやま」に派遣しました。

会議は、「集い、語り、ともに拓こう！新たな関係」をテーマに、10月22日・23日の2日間、愛媛県県民文化会館などで盛大に開催されました。

基調報告

「北京女性会議から10年」～行動綱領は、どのように活かされてきたか～

報告者 名取 はにわさん(内閣府男女共同参画局長)

シンポジウム「気づこう・築こう、わいわいシンポ」

「男女共同参画社会の今、そして これから」

コーディネーター 樋口 恵子さん

シンポジスト 岩男 寿美子さん、瀬地山 角さん、竹信 三恵子さん

記念講演

「女性と平和」～わたしにできること～

講師 渡辺 えり子さん(劇作家・女優)

分科会

1. 「女性への暴力」
2. 「メディア・リテラシー」
3. 「教育」
4. 「女性と健康」 A「女性用外来って何？」 B「ダンスセラピー」 C「セクシュアリティ」
5. 「条例」
6. 「仕事と子育て」
7. 「政策決定における男女共同参画」
8. 「環境」 A「調和と共生」 B「ははじめよう。循環型の暮らし」 C「ごみ問題から社会を変える」
9. 「働き方」
10. 「平和」
11. 「女性学・男性学」
12. 「農山漁村と女性」
13. 「家族」
14. 「高齢社会と女性」
15. 「いのち」



伊藤 信子さん

どこの国も経験したことのないスピードで高齢化が進み、2050年以後4人に1人が高齢者となる。第14分科会「高齢社会と女性～自分らしく輝いて生きる～」では、樋口恵子さんの司会で、4名のパネラーの熱い意見交換が休憩時間もなく行われた。特に5年後の介護法の見直し、現在300万人の被介護者がベビーブーム期に生まれた人が高齢者になる2015年には600～700万人になる。20億円の特養ホーム(100名入居)を建てるより、地域密着型のグループホーム(10名入居)設立、福祉を入れての町づくりが大切であることを改めて身に感じた女性会議であった。

北野 善美さん

日本女性会議が松山で開催されることを知り、ぜひ樋口恵子さんの話を聞きたいと参加希望致しました。

満席の会場では、「集い、語り、ともに拓こう！新たな関係」をテーマに北京女性会議、行動綱領はどのように活かされてきたのかという基調報告があり、その後のシンポジウムでは樋口恵子さん、シンポジスト、ゲストの学生の皆さんを交え、会場も一体となつての和やかな中、私も真剣に話を聞かせて頂きました。

特に心を痛めたのは、10年間で自殺者が増えたというシンポジスト瀬地山さんの話で、厳しい社会状況となった現在を見つめ直すこととなり、今日のニュースでも多く取り上げられていることだと実感致しました。

最後に樋口さんが「現在はシステム変換の途上である。人間の幸福を考える文化を次の世代に伝えよう」と話をされ、これからの少子高齢化が進みゆく中、女性が生き生き社会参画し、ボランティア活動を続けていく必要性を強く感じました。

清田 博子

「集い、語り、ともに拓こう！ 新たな^{かたち}関係」のテーマに惹かれ、活気あふれる雰囲気^ひに心が弾み、楽しい出会いの連続の2日間でした。一番印象的だったのは交流会で出会った人々です。各地で男女共同参画推進条例づくりに情熱を燃やす話に耳を傾けていると、生駒でも是非条例を！という気持ちになりました。手をつないで男女が共に幸せになろうとする、関係^{かたち}に共感し、私のパワーもわいてきます。又全国の輝く女性たちに会いたいと思います。

登 圭緯子

国際女性年から30年、北京女性会議から10年を迎え、日本中の熱き思いを持つ女たちが集う日本女性会議2004が松山で開かれました。生駒から参加した私たちも、全国から集まってきた多くの女性と共に、たくさんのパワーをもらってきました。いただいたこのパワーを、多くの生駒の女性たちに伝え、生駒市の男女共同参画の一步になればうれしいです。

藤田 照子さん

日本女性会議は初参加です。開催メイン会場のロビーには市民ボランティアによる300枚の歓迎キルトが展示され、市民の方々の開催への意気込みが感じられました。
男女共同参画社会基本法について知っている人は少ないと思います。今から始まることなのです。「知っているつもりだったのに」とならないように人々が認識を持つこと、認識をあげるための努力も必要だと思います。
女性の生き方は多様化してきました。女性の立場を理解する環境づくりは整いつつあると思います。女性自身それに対応できる能力や技量等の向上への努力も必要だと思いました。



事前研修会



事後報告会



久保 とき代さん『動き出そうひとりから つながろう 男と女』

“動けば動くほど、人はエンパワーメントできる”
これは、「日本女性会議2004まつやま」の分科会“メディア・リテラシー”で話されたコーディネーター小川真知子さんの言葉。

10月22日、23日両日にわたり、多くのわくわくする出会いがあった。言葉を大切にする松山という地域との出会い、全国から集まったエネルギーあふれる人達との出会い、男女共同参画社会を考えることは、まさに一人一人が生きやすい社会をつくることだと実感した2日間だった。まず、一歩！！さあ、あなたも始めませんか。気軽に楽しく息長く……。

おたよりをください

キ リ ト リ 線

A series of horizontal dashed lines provided for readers to write their comments or feedback.

読後のご意見ご感想や生駒市の男女共同参画施策に関するご意見をお待ちしています。なお、お寄せいただいたご意見等は本誌に掲載させていただくことがありますので、ご了承ください。
e-mail(jyosei@city.ikoma.lg.jp)も受け付けます。

生駒市女性センターからのインフォメーション

当センターでは、男女共同参画の視点で新たな活動を広げたり、再就職へのきっかけとなるような講座を企画しています。平成17年度は、情報発信スキル養成講座、自己表現セミナー、女性のチャレンジを支援する講座、男性対象の講座、専門講座（DV週間にちなんだ講座）を予定しています。ぜひご参加ください。

情報発信スキル養成講座

「PTAや自治会、サークルなどの広報担当になったが」「エッセイやコラムを書いてみたい」「地域活動の情報ミニコミ誌にチャレンジしたい」……。きっかけはいろいろ。おおいに自分を発揮して活躍してみませんか？

託児もあるので、自分の楽しみの時間としてトライしてください。

- 【講師】 DOプラン 南村利子さん
- 【場所】 生駒セイセイビル
- 【時間】 午前9時30分～11時30分
- 【定員】 30人（抽選制）
- 【費用】 無 料
- 【対象】 市内に住むか、市内に通勤、通学している人
- 【託児】 満2歳以上就学前の幼児を対象に託児を行います。（おやつ代等として一人一回100円が必要）

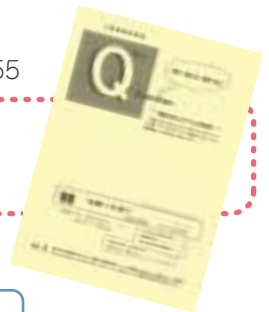
【申込方法】 往復はがきにて下記の事項をご記入のうえ、女性センター「情報発信スキル養成講座」係へ申し込んでください。FAXでも可。①住所 ②氏名（ふりがな） ③年齢 ④電話番号（FAX番号） ⑤受講を希望する理由 ⑥託児の有無〔希望の場合は子どもの氏名（ふりがな）、年齢もご記入ください。〕

【申込締切】 平成17年5月10日(火)

【申込・問合わせ】 〒630-0257 生駒市元町1丁目6番12号 ☎0743-73-0556 Fax0743-73-0555

回	月 日	テーマ
1	5月19日(木)	エンパワーメントするための情報知識あれこれ
2	5月26日(木)	形にしてみよう 情報誌づくり ～文章の書き方、取材の仕方 レイアウトまで～
3	6月 2日(木)	
4	6月 9日(木)	
5	6月16日(木)	「できたよ、できた」 ～テーマを生かす特集～
6	6月23日(木)	相手を引きつけるプレゼンテーション

この情報誌は「Q情報発信基地」という会に編集をお願いしています。平成14年度「情報発信トレーニング講座」を修了した方々が、「勉強したためになった」で終わらず、自分たちで情報誌を作ってみようと発足した会です。



郵便はがき

630-0288

50円切手を貼って
投函して下さい。

生駒市東新町8-38

生駒市教育委員会女性青少年課

びびっど ゆうあい
『Vivid You&I』係行

ふりがな _____

お名前 _____ 年齢 _____ 歳

〒 _____

ご住所 _____

TEL (_____) _____

匿名希望 有(ペンネーム _____) ・ 無

この情報誌をどちらで入手されましたか。

編集後記

今回のテーマで、人生いろいろ生きている限り可能性はあるものと感じました。自分を信じるのが大切ですね！【岩田】

顔を輝かせて生き生きと夢について語られる人たちのパワーが伝わり、取材を終えた後も強い余韻が残りました。【加藤】

夢をテーマに取り上げたので、ついつい自分の夢をはじめ夫や子どもたちの夢について思いを馳せました。夫からは「夢なんて無い。」という言葉が返ってきそうです。「Vivid You&I 16号」を見せて夢を語り合おうと思います。【福田】

夢に向かっている人、実現されている人は皆輝いています。それは成功の結果ではなく、前向きな考え方がそれを導いているのでしょうか。私も実現しなくてもいいから、夢を持ち続けたいと思いました。【森】

- 生駒市女性情報誌・第16号
- 発行＝生駒市・生駒市教育委員会
- 編集＝生駒市教育委員会事務局女性青少年課
(〒630-0288 生駒市東新町8-38 ☎0743-74-1111内線673)
e-mail (jyosei@city.ikoma.lg.jp)
- 発行日＝平成17年(2005年)3月

(この情報誌は再生紙を使用しています)